



sponsored by **TOWNWORK**

ファイナリストインタビュー

# Campus Life+1 に出て変わったこと

昨年度開催された「Campus Life+1 2018」において、約4万1千通の応募の中から見事選ばれたファイナリストたちのその後をインタビュー。Campus Life+1 を経てどのように彼らが変わったのか聞いてみました。



高杉 健一さん(22歳) 早稲田大学  
東京都豊島区出身。大学では分子微生物学を学んでいる。来年からは大学院に進学。塾講師のアルバイトでは英語と数学を教えている。

## 『津軽三味線の魅力を世界中の人々に夢を叶えるために動き出しました』

### サークル引退後も津軽三味線をその思いで団体を立ち上げた

「以前は自分の夢に対して漠然とした思いを抱いてなかったのですが、キャンパスライフ+1に出場したことで、これから自分が何をすればいいのか明確になりました」

そう話すのは、早稲田大学に通う高杉さん。大学1年生のとき、友人が加入していた津軽三味線のサークルを見学したことをきっかけに津軽三味線の道に。そして、海外での公演を通じ、津軽三味線の魅力を世界中に伝えたいという夢を持つようになった。そして、昨年度のキャンパスライフ+1に出場し、

見事ファイナリストに選出された。

「他の出場者のプレゼンを聞いたり、交流を図ることで、大きな刺激を受けました」

サークル引退後、高杉さんは自らが発起人となり、新しい団体を立ち上げ、引退した学生たちが活動を続けられるよう力を尽くしたのだ。

「先日は、海外の人たちがよく利用するホステルのバーで、演奏会をさせていただきました。今は所属していたサークルのメンバーですが、今後はもっとその輪を広げていき、様々なプレーヤーと一緒に活動したいですね。少しずつではありますが、自分の夢に近づけているので、今は充足感でいっぱいです」

高杉さんが立ち上げた新しい団体のTwitterアカウント。活動の報告のほか、三味線を弾く際に使用するアクリルばちの製作を請け負っている。「サワリ」とは、全ての糸を震わせて音を響かせる三味線のパーツに由来するのだそう。



<https://twitter.com/sawarishamisen?lang=ja>

## Campus Life+1 で得たもの



「もともと人前で話すのは得意じゃなかったのですが、ファイナルのときは緊張しましたね。演奏もすごく緊張しましたが、演奏を聞いてくださった観客の方から『よかったですよ』と声をかけていただいたのは励みになりました。自信ができましたし、モチベーションが高まりました」

**応募資格**  
●現在、大学(院)生、短大生、専門学校生、高校生、高等専門学校生、高等専修学校生の方(20歳未満の方は保護者同意の上ご応募ください) ●日本国内に在住している方。国籍は問いません。 ●団体での応募も歓迎(最終選考出場は1チーム5人までとする) ●2020年3月に東京にて開催予定の最終選考に参加いただける方※詳細は一次選考合格の方へご連絡の際にお知らせいたします。 ●過去に「Campus Life+1」にご応募いただいた方の応募も可能です。

**注意事項**  
●応募における個人情報は主催者及び関係会社のみ開示され、今回の企画以外に使用することはできません。 ●本人(チーム/団体)情報に誤りがある場合は、合格が取り消される場合があります。 ●可否や選考基準に関するお問合せにはお答えできません。ご了承ください。 ●選考通過者の方にはこちらからご連絡いたします。

**ご応募はコチラから!** 応募はWEBサイトで受け付けています。

右下のURL、2次元バーコードからサイトにアクセスし、必要項目をご記入ください。

みんなの夢を  
随時更新

エンタク  検索 <http://entac.jp/>

応募期間: 2019年8月1日(木)~2020年2月2日(日)



主催: **EVANI!**  
enjoy talking campus

協賛: **TOWNWORK**

お問い合わせ先: 学生コミュニティサロン「エンタク!」  
TEL052-241-8100  
(受付時間/平日9:00~18:00)

**RECRUIT**